



総社新農業会議設立総会

会長への就任が決まった佐藤豊信岡山大学副学長。「全力で務めたい。協議では、批判だけの発言はよくない。改善のための提案を併せて出してほしい」と、就任のあいさつをした



会議の冒頭であいさつする市長。「農業を元気にし、そして、農業者を一人でも多く増やしたい」と、総社新農業会議への期待を表した

## 総社新農業会議

総社の農業の将来ビジョンを考える「総社新農業会議」。設立総会が5月27日、市役所で開かれ、発足しました。今後、全体会議や分科会で協議を重ね、平成22年秋ごろをめどに、総社市独自の理念や将来ビジョンをまとめていきます。

増やしたい。農業を元気にしたい」。会議の冒頭のあいさつで市長は、この言葉を何度も口にしました。そして、この会議にかける思いを、「今までの農業は、生産、加工、流通、行政といったそれぞれの枠内でしか話がされておらず、消費者の声は反映されていない。今重要なことは、

総社の農業の将来ビジョンを考える「総社新農業会議」。  
生産者、加工、流通、消費者、行政など、「農」の一字に集まった人たちが、一つの輪となり、  
農業を元気にし、農業者を増やすため、  
これから活発な議論を行う。

# 農業を元気に

生産から消費者に至るまで、それぞれのポジションにある人が、お互いに連携し、理解し合い、閉塞感を取り除くことだ。『総社で農業をやってみようじゃないか』と思える農業に変えていきたい。1年ちよつと、総社の農政の明日というものを作っていくため、思う存分議論をしてほしい」と言葉にしました。

きびじ農業後継者クラブ会長、農業公社きびの里、有機野菜や水稲の生産者です。流通には、民間企業の4社と、サン直広場ええとこそうじゃ組合長が名を連ねています。消費者の代表として、市内の主婦3人が委員に就任しています。

会長には、佐藤豊信岡山大学副学長、副会長には、JA岡山西の小野一郎代表理事組合長の就任が決まりました。

会議では、委員への委嘱状の交付後、耕地面積や農家数、販売実績など総社の農業の概要説明や、今後の進め方の協議が行われました。

委員は、生産者、加工、流通関係者、消費者の代表らと、有識者、行政関係者、顧問1人を含む30人。生産者関係の委員は、三輪と原地区の営農組合の組合長をはじめ、ブドウやモモ、ナス、セロリの生産組合の組合長、

会議終了後、佐藤会長は、「総社は、野菜と果物が強く、近くに消費者が多い、生産と消費をうまく結びつけることが一つのポイント。また、営農組合を広げていくこともポイント。総社の経済と農業の特性を生かした、総社ならではのものを作らないといけない」と。さらに、「私（委員）たちで議論し、私たちがそこに到達するプロセスを大切にしたい」とも話しました。

問い合わせ 農林課 農林係  
☎08271

